

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	病理学 I			担当教員	石井 映幸
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、医師：27年	
授業概要					
テキストを中心に、病気の成り立ちから疾患を理解するための基本的な知識、考え方を学修する。					
到達目標					
1. 疾病の要因とその成り立ちについて説明することができる。 2. 症候論から見た病態を説明することができる。					
回数	単元	内容			
1	病理学とは	病気の成り立ち			
2	循環障害	体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環			
3	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血			
4	循環障害	チアノーゼ、ショックの分類、DIC			
5	炎症	炎症の徴候、発症機序			
6	炎症	アレルギーの分類			
7	免疫疾患	免疫システムについて			
8	免疫疾患	膠原病について			
9	代謝異常	脂質異常症、肥満			
10	代謝異常	糖代謝異常、動脈硬化症、痛風			
11	変性・壊死	萎縮・老化			
12	先天異常	先天異常と遺伝子異常			
13	先天異常	胎児異常、遺伝子異常、染色体異常			
14	腫瘍	腫瘍の発生			
15	腫瘍	良性と悪性、ステージ分類			
評価	客観テストによる評価 100%				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）				
参考図書など	疾病のなりたち（医学書院）				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	基礎看護学概論			担当教員	増田信代
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師：16年	
授業概要					
<p>看護学の導入科目として、「看護とは何か」、「看護の対象である人間とは何か」を学び、看護の目的とその達成のためにどのような方法で看護を行うのかの基本的な知識について学修する。看護は人間の健康に働きかけるため、看護の構成要素である「人間」「環境」「健康」「看護」を理解し、またその関連性を学修する。さらに、「看護の対象者の理解」「国民の健康状態と生活」「看護の提供者」「看護倫理」「看護理論」を学び、専門職としての看護の役割・機能について学修する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の変遷と看護とは何かについて説明することができる。 2. 看護のさまざまな概念、定義について説明することができる。 3. 看護の対象が述べることができる。 4. 国民の健康の全体像について説明することができる。 5. 看護活動を展開するために必要な倫理について説明することができる。 6. 看護理論とは何かを説明することができる。 7. 看護の場における看護師の役割と責任について説明することができる。 8. 「看護とは」の自分の考えを述べることができる。 					
回数	単元	内容			
1	看護とは	①ガイダンス、②看護学の全体像			
2	看護とは	①看護の歴史、②看護教育の歴史と変遷			
3	看護とは	①看護の定義、②主要概念			
4	看護とは	①看護の役割と機能、②看護の役割・機能の拡大、			
5	看護とは	看護の継続性と連携：①情報伝達と共有、②多職種チームの連携と継続的なかわり			
6	看護の対象の理解	人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 ①対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理、②ホメオスタシス			
7	看護の対象の理解	①「こころ」と「からだ」にかかるストレス、②患者心理の理解			
8	看護の対象の理解	①生涯発達しつづける存在としての人間理解、②人間の「暮らし」の理解			
9	国民の健康状態と生活	①健康の捉え方、②国民の健康状態			
10	国民の健康状態と生活	①国民の健康状態、②国民のライフサイクル			
11	看護の提供者	①看護職の資格・養成制度・就業状況、②継続教育とキャリア開発			
12	看護における倫理	①現代社会と倫理、②医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理			
13	看護理論	①看護理論の発達背景、②看護概念と看護理論、③看護の諸理論			
14	看護理論	理論家の看護理論：①ナイチンゲール、②ヘンダーソン、③オレム、④ロイ、⑤トラベルビー ⑥ペプロー、⑦ウィーデンバック、⑧オーランド			
15	看護理論	理論家の看護理論：①ナイチンゲール、②ヘンダーソン、③オレム、④ロイ、⑤トラベルビー ⑥ペプロー、⑦ウィーデンバック、⑧オーランド			
評価	客観テストによる評価80%、提出物20%				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① (医学書院) 覚え書き (現代社) の基本となるもの (日本看護協会出版会) わかる看護者の倫理綱領 (照林社)				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	精神看護学概論		担当教員	八木 和子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師、20年	
授業概要					
現代社会の精神領域における法律と制度を理解し、精神障がい者の日常生活と社会生活を総合的に支援するための基礎的知識について学修する。また、精神障がい者の人権擁護の観点から精神看護を実践するものとしての視点や態度を学び、メンタルヘルスケアの向上の意義と看護職の役割について学修する。					
到達目標					
1. 理論を用い、人間の心の働きやアイデンティティ、自我の構造、愛着行動、屈折した甘えを説明することができる。 2. 精神看護を要する事例を用いて共同学習することで、精神症状を理解するための方法と看護を表現することができる。 3. 主な治療法、有害反応(副作用)を説明することができる。 4. 精神科領域で必要な法制度に則った入院形態や処遇等を説明することができる。 5. 社会の中の精神障害について概観し、精神看護・精神保健の考え方を説明することができる。					
回数	単元	内容			
1	第1章 精神看護学の基本	1) 心のケア、ゲートキーパー 2) 精神科医療の現状 3) 現実問題と生きにくさ 4) 関係性の理解			
2	第2章 精神保健の考え方	1) 精神の健康・精神障害の3側面 2) ストレス反応と危機 3) ト라우マ 4) レジリエンス			
3	第3章 人間の心の働きと パーソナリティ	1) 意識・認知機能、感情、学習と行動			
4		2) 知能 3) 知的能力の障がいと生活上の問題 4) ASD (自閉症スペクトラム)			
5		5) 人格と気質 6) フロイトの理論			
6		7) エリクソン/ユング/ボウルビー/コフト/土居の理論 8) 人格検査			
7	第4章 関係の中の人間	1) システムとしての家族(ジェノグラム) 2) 嗜癖(アディクション)のアイスバーグモデル 3) 家族療法の技法			
8		4) セルフヘルプグループ 5) 集団精神療法の種類 6) 「今、ここで here&now」の原則			
9	第5章 精神科で出会う人々	1) 「病の体験」「様々な精神症状」-理解のための手がかり ①思考障害			
10		②感情障害 ③意欲の障害 ④知覚障害 ⑤記憶障害			
11		2) 疾病分類について(DSM、ICD) 3) 統合失調症事例検討(提出物1) ①中核症状・副次症状 ②1級症状・2次症状 ③陽性症状・陰性症状 ④病型			
12		4) 統合失調症の治療 5) 薬物療法、有害反応 ⑥電気痙攣療法			
13	第6章 精神科での治療	精神療法について ①個人療法 ②集団精神療法 ③家族療法 ④環境療法・社会療法			
14	第7章 社会の中の精神障害	1) 治療の歴史、スティグマ 2) 人権の4領域 3) 精神障害と法制度 4) 入院形態、処遇			
15	まとめ	達成目標の到達状況の確認(提出物2)			
評価	客観テストによる評価70%、提出物30%				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護学の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護学の展開 (医学書院)				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	基礎看護方法論Ⅷ			担当教員	高橋 綾子
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師：20年	
授業概要					
健康障害のある対象が、安心して安全・安楽に診療を受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の重要な役割である。薬物療法においても、解剖生理学、薬理学、看護物理学の講義をもとに、根拠となる知識、安全・安楽な援助技術、患者の苦痛に配慮できる態度を学び、正確な与薬とその後の観察の方法を学ぶ。					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬の意義・目的を述べるができる 2. 与薬経路と体内動態を説明することができる 3. 与薬法、注射法の目的・方法・留意点を説明することができる 4. 与薬における看護師の役割を述べるができる 5. 輸血療法の目的方法、留意点を述べるができる 6. 与薬の援助を受ける対象へ配慮する必要性を述べるができる 					
回数	単元	内容			
1	1. 与薬に関する基礎知識	1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法における看護師の役割 3) 薬物療法を受ける患者の援助			
2	2. 外用薬の皮膚・粘膜適用	1) 口腔内与薬法 2) 皮膚用製剤の塗布 3) 点眼・点入法 4) 吸入法			
3	演習	経口与薬法と実際、皮膚用製剤の塗布、貼布の方法と実際			
4	直腸内与薬の方法と実際	直腸内与薬の方法と実際			
5	3. 注射法の基礎知識	1) 注射法とは 2) 看護師の役割 3) 患者の援助 4) 必要な器具と取扱い 5) 各注射に共通する実施方法 6) 注射による合併症			
6	注射法	1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射			
7	演習	皮下注射の実際、注射器の取り扱い、アンプルカット			
8					
9	演習	筋肉内注射の実際、注射器の取り扱い、アンプルカット			
10					
11	4. 輸血方法 血液型	輸血の種類、保存方法、交差試験			
12	注射法	4) 静脈内注射 5) 注射器取り扱い 6) 輸注ポンプ			
13	演習	静脈内注射、注射器取り扱い、バイアル(薬液溶解)、固定方法			
14					
15	演習	輸液ポンプの操作、輸液滴下調整法			
評価	終講テスト・レポートなどの総合評価とする				
教科書	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院) 看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 看護がみえるVol.①② 基礎看護技術 (MEDIC MEDIA)				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ		担当教員	田中貴代子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師：28年	
授業概要					
<p>老年期に特有な健康障害を有する老年者を理解し、健康状態に応じた看護を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>1. 老年期に特有な健康障害について説明することができる。 2. 健康障害が日常生活に及ぼす影響について説明することができる。 3. 健康障害に応じた看護について説明することができる。</p>					
回数	単元	内容			
1	身体疾患のある高齢者の看護①	1. 脳卒中に対する看護 1) 健康障害が日常生活に及ぼす影響 2) 症状・障害に対する看護 3) 日常生活の支援			
2	身体疾患のある高齢者の看護②	パーキンソン病・パーキンソン症候群に対する看護 1) 健康障害が日常生活に及ぼす影響 2) 症状・障害に対する看護 3) 日常生活の支援			
3	身体疾患のある高齢者の看護③	骨折に対する看護 1) 健康障害が日常生活に及ぼす影響 2) 症状・障害に対する看護 3) 日常生活の支援			
4	看護過程の展開①	①事例紹介 ②ゴードンの機能的健康パターンの解釈			
5	看護過程の展開②	②ゴードンの機能的健康パターンの解釈 ③関連図			
6	看護過程の展開③	③関連図 ④解釈した項目から看護計画立案			
7	看護過程の展開④	④解釈した項目から看護計画立案			
8	看護過程の展開⑤	⑤看護過程のまとめ			
評価	終講試験、看護過程、授業参加態度などの総合評価とする。				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院)				
参考図書など	ヘルスアセスメント (南江堂) 看護のための人間発達学 (医学書院)				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	小児看護学概論		担当教員	村上 ヒトミ (1, 13~15) 石井 淳子 (2~12)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		村上 (有・看護師:13年)、石井 (有・看護師17年)	
授業概要					
子どもと家族を取り巻く環境とその変化について学び、小児看護の特徴と理念について学習する。子どもの成長・発達に盈虚羽する因子、成長・発達の評価、発達段階各期の携带的、生理的、知的、情緒的特徴等について学習し、小児看護の対象である子どもと家族の理解を深め、小児看護の概念と役割について学習する。また、子どもを取り巻く社会と、子どもや家族への適切な支援の概要を学ぶ。					
到達目標					
1. 小児看護の歴史から、現代における子どもを看護する上で必要な理念と看護者の姿勢について表現することができる。 2. 小児看護の目標、対象、特徴について説明することができる。 3. 小児看護を理解するために必要となる家族倫理および家族支援の必要性について表現することができる。 4. 子どもの成長発達の原理・原則と成長過程について説明することができる。 5. 各期の子どもの特徴を携带的・機能的・心理社会的側面から具体的に述べるすることができる。 6. 子どもにとって必要な栄養について説明することができる。 7. 子どもや家族への適切な支援について表現することができる。					
回数	単元		内容		
1	第1章 小児看護の特徴と理念		①小児看護の目指すところ ②小児看護の変遷 ③小児看護における倫理 ④小児と家族の諸統計 ⑤小児看護の課題		
2	第2章 子どもの成長・発達		①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価		
3	第3章 子どもの栄養		①子どもにとっての栄養の意義 ②子どもの食育 ③発達段階別の子どもの栄養の特徴		
4	第4章 新生児・乳児 (1)		新生児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護		
5	第4章 新生児・乳児 (2)		乳児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護		
6	第5章 幼児 (1)				
7	第5章 幼児 (2)		①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護		
8	第5章 幼児 (3)				
9	第5章 学童 (1)		①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護		
10	第5章 学童 (2)				
11	第6章 思春期・青年期 (1)		①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護		
12	第6章 思春期・青年期 (2)				
13	第7章 家族の特徴とアセスメント		①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント		
14	第8章 子どもを取り巻く社会 (1)		①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥特別支援教育 ⑦臓器移植法		
15	第8章 子どもを取り巻く社会 (2)				
評価	客観テストによる評価80%、課題レポート20%の総合評価とする				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院) 看護実践のための人間発達学 (医学書院) 国民衛生の動向				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	母性看護学方法論 I		担当教員	北川 悦子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、助産師：3年、専門学校教員：34年	
授業概要					
<p>正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を学修する。妊婦・産婦に行われている看護内容を理解し、実習では妊婦・産婦に適切な対応ができるように学修する。正常な褥婦および新生児の観察、アセスメント、看護実践ができるような知識・技術・態度を学修する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の定義を説明することができる。 2. 妊娠の成立と胎児の発育がイメージしたうえで、生命の尊厳を考察することができる。 3. 妊娠に伴って起こる変化をふまえ、ロールプレイングすることができる。 4. グループで分娩各期の看護について説明することができる。 5. 産褥期の心身の変化をふまえ、観察することができる。 6. 新生児の生理的变化をふまえ、アセスメント内容を説明することができる。 					
	単元		内容		
1	第1章 妊娠期における看護(1)		講義概要①妊娠の定義②妊娠の成立と胎児の発育③胎児付属物④胎児循環 教科書第3章		
2	第1章 妊娠期における看護(2)		①妊娠期間の定義②妊娠に伴う母体の生理的变化 課題の説明 教科書第3章		
3	第1章 妊娠期における看護(3)		①妊婦の心理②家族の心理③社会的サポート④妊婦健康診査 教科書第3章		
4	第1章 妊娠期における看護(4)		妊娠各期(初期・中期・後期)の保健指導 ロールプレイングの準備 教科書第3章		
5	第1章 妊娠期における看護(5)		妊娠各期(初期・中期・後期)の保健指導 ロールプレイング 教科書第3章		
6	第2章 分娩期における看護(1)		①分娩の定義②分娩の3要素③胎児の産道通過機序 教科書第4章		
7	第2章 分娩期における看護(2)		①分娩各期の看護②ビショップスコア③恐怖・緊張・痛み症候群④母子相互作用 教科書第4章		
8	第2章 分娩期における看護(3)		①事例から分娩各期の看護を考える 教科書第4章		
9	第3章 産褥期における看護		①産褥期の生理的变化②退行性変化③進行性変化 教科書第6章		
10	第3章 産褥期における看護		①褥婦の心理的变化②家族の心理的变化③社会的支援 教科書第6章		
11	第3章 産褥期における看護		①子宮復古の援助②母乳促進の援助③褥婦の系統的観察④褥婦の健康と快適さを促す援助⑤育児技術への援助 教科書第6章		
12	第1～3章 母性看護の技術		演習：レオポルド触診法 胎児回旋 子宮底の観察 妊婦体験 教科書第3、4、6章		
13	第4章 新生児期における看護		①新生児の生理的变化②子宮外適応現象③生理的黄疸 教科書第5章		
14	第4章 新生児期における看護		①出生直後のアセスメントと看護②黄疸の評価③生理的体重減少の評価 教科書第5章		
15	第4章 新生児期における看護		①新生児の観察と報告②移行期から退院までの看護③新生児の医療事故と安全 教科書第5章		
評価		客観テストによる評価90% レポート10%			
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 (医学書院)			
参考図書など		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 (医学書院)			

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ			担当教員	小原 良之
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師：12年	
授業概要					
精神の障害や気分の揺らぎを誘因とした生きづらさを焦点に据え、対象との治療関係構築を基盤として基本的日常生活動作に関連する認知機能のアセスメントから、生活支援の方法について学修する。また、精神看護の対象者の入院から退院までにかかる支援プロセスならびに退院後の生活支援について学修する。さらに、対象の安全を守る手技や環境の調整について学修する。					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者一看護師関係のプロセスについて説明することができる。 2. 看護を行う者として内省することの必要性を説明することができる。 3. 対象が回復していく過程を説明することができる。 4. 基本的日常生活動作に関連する生きづらさを説明することができる。 5. 入院から退院までに必要な支援について説明することができる。 6. 社会生活を送るために必要な支援について説明することができる。 7. 対象を危険から守る環境について説明することができる。 					
回数	単元		内容		
1	第7章 ケアの人間関係(1)		健康と不健康、患者一看護師関係		
2	第7章 ケアの人間関係(2)		治療的関係の構築、対人関係と感情、治療的コミュニケーション		
3	第7章 ケアの人間関係(3)		患者一看護師関係で起こる反応		
4	第8章 精神科における看護の役割(1)		入院治療の意味		
5	第8章 精神科における看護の役割(2)		治療的環境をつくる		
6	第8章 精神科における看護の役割(3)		緊急事態に対処する		
7	第8章 精神科における看護の役割(4)		回復を助ける		
8	第9章 身体をケアする(1)		食行動に関連する認知機能、アセスメントの視点と援助		
9	第9章 身体をケアする(2)		排泄行動に関連する認知機能、アセスメントの視点と援助		
10	第9章 身体をケアする(3)		精神科における睡眠・余暇の意義、アセスメントの視点と援助		
11	第9章 身体をケアする(4)		精神科における整容・清潔の意義、アセスメントの視点と援助		
12	第10章 地域における精神看護(1)		医療の継続性、外出・外泊への支援		
13	第10章 地域における精神看護(2)		地域で生活するための原則		
14	第10章 地域における精神看護(3)		社会保障と生活維持への支援		
15	まとめ		第7章～第10章に関連する過程、授業評価		
評価		客観テストによる評価80% 提出物20%			
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 (医学書院)			
参考図書など		看護モデルを使う②ペプロウの発達モデル 臨床実習ガイド 精神看護 身体拘束予防ガイドライン 精神科臨床看護技術の展開			

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2020年度
授業科目名	在宅看護論方法論Ⅲ		担当教員	川北 千鶴	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、看護師：20年	
授業概要					
在宅看護の特徴として、疾患中心とした問題解決ではなく対象の生き方や望みを把握し、生活を重視した目標達成志向での看護過程であることを学修する。また、療養者、家族の思いや生きがい、大切にしたいことを中心に家族の介護力、家族の心身の健康状態、生活環境、経済状況と社会資源の活用状況におけるアセスメントをすることによって全体像を捉え、対象の生活への影響、今後の予測について学修する。					
到達目標					
1. 在宅看護過程では、医療と生活の側面を目的としていることを説明することができる。 2. 事例を通し、対象の疾患と制度・社会資源を説明することができる。 3. 在宅看護過程の構成要素とその特徴について説明することができる。 4. 在宅看護のアセスメントの視点を説明することができる。 5. 対象の強みを活かし、生活を維持できる計画立案の必要性を説明することができる。 6. ケアの継続性の視点から評価・修正の必要性を説明することができる。					
	単元		内容		
1	第1章 在宅看護過程の展開		在宅看護の展開方法①在宅看護の特徴②情報収集とアセスメント 目標の設定・計画④実施と評価 教科書第5章		
2	第2章 在宅看護の事例展開(1)		COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開①疾患理解②事例紹介③情報の整理 教科書第7章		
3	第3章 在宅看護の事例展開(2)		事例展開④制度・社会資源の理解⑤アセスメント(身体的側面) 教科書第4章		
4	第4章 在宅看護の事例展開(3)		事例展開⑥アセスメント(精神的側面)(環境・生活の側面) 教科書第7章		
5	第5章 在宅看護の事例展開(4)		事例展開⑦アセスメント(家族・介護状況の側面) ⑧関連図 教科書第7章		
6	第6章 在宅看護の事例展開(5)		事例展開⑨看護計画の立案 教科書第7章		
7	第7章 在宅看護の事例展開(6)		事例展開⑩看護計画の実施 教科書第7章		
8	第8章 在宅看護の事例展開(7) まとめ		事例展開⑪目標の評価 まとめ「到達目標」達成状況の確認 教科書第4章、第5章、第7章		
評価		客観テストによる評価50% 提出物50%			
教科書		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)			
参考図書など		適宜紹介する			